



米軍再編に係る千歳基地への 訓練移転（日米共同訓練）の実施

令和3年9月13日（月）から22日（水）までの間、米軍再編に係る訓練移転（日米共同訓練）を航空自衛隊千歳基地で実施しました。

同訓練は、再編の実施のための日米ロードマップ（平成18年5月1日）に基づき、二国間の相互運用性の向上と在日米軍飛行場の周辺地域における訓練活動の影響を軽減するため、平成18年度以降、米軍の嘉手納、三沢及び岩国飛行場から自衛隊の千歳、三沢、百里、小松、築城及び新田原基地への航空機の訓練移転を実施するものです。

また、平成22年5月の「2+2」共同発表に基づき、平成23年1月、日米合同委員会において、移転先として新たにグアム等への拡充について合意され、同年10月、日米合同委員会において、訓練実施場所などの詳細について合意された後、初めてグアムなどへの訓練移転が行われ、その後も実績を重ね、平成26年3月には、三沢対地射爆撃場を追加することについて日米合同委員会で合意されました。

今回の千歳基地での訓練は令和2年8月に続き11回目となります。



写真提供：米軍嘉手納基地

今回は、米軍から第18航空団（嘉手納）に所属するF-15戦闘機×12機及びE-3C×1機が、また、航空自衛隊から第2航空団（千歳）に所属するF-15戦闘機×12機等が参加し、戦闘機戦闘訓練等が実施されました。

北海道防衛局は本訓練移転の期間中、千歳基地内に「北海道防衛局訓練移転現地連絡本部」（本部長：掛水企画部長）を設置し、地元自治体、関係機関への訓練に関する情報の提供をはじめ、米軍への物品等の調達支援、航空機騒音測定等、同訓練を円滑に実施するための各種支援等業務を行いました。

9月10日（金）には、関係自治体の関係者を対象とした本訓練に係る説明会を千歳基地内の広報館で開催しました。今回の説明会では、新型コロナウイルス感染症対策として、ソーシャルディスタンスの確保、マスクの着用、飛沫感染を防止するアクリル板の設置及び消毒液の設置等の感染防止対策を講じた上で、第18航空団のバンビュースカム中佐と当局の掛水企画部長が訓練の目的や意義、期間中の米軍要員の感染防止対策等について説明を行いました。



米軍バンビュースカム中佐（右）



掛水企画部長



説明会



航空機騒音測定



調達支援（人員輸送）

今回は、コロナ禍での訓練となりましたが感染者が発生することなく、また、訓練に関する事件・事故もなく、無事終了することができました。

北海道防衛局は、訓練の実施に当たっては、引き続き千歳基地周辺住民の方々の安心・安全のため米軍や地元関係自治体と緊密に連携を図りながら万全の体制で取り組んでまいります。